

留学体験記 ～佛山市からの留学生・苗 伍 君 さん～

私が大学時代から日本語を勉強している理由は2つあります。1つ目は、将来国際交流の仕事に就きたくて、英語以外の外国語を勉強したかったからです。2つ目の理由は、子どもの頃、日本のアニメ「ちびまる子ちゃん」、「名探偵コナン」を見るのが好きだったからです。日本への留学生に選ばれた時は、何より嬉しかったです。そして、仕事を休職して、再び学生に戻り、充実した1年を過ごしました。以下3つのテーマに分けて、留学生生活を振り返りたいと思います。

1. 学習とサークル活動について

留学生活の前半は大阪日本語教育センターで勉強しました。センターの先生たちはみんな知識が豊富で、熱心で、一生懸命に学生のお世話をしているところが一番印象深かったです。後半は、関西学院大学社会学部の聴講生課程を選択し、ボランティア社会学、村落社会学、福祉社会学、世論研究を学びました。大学の先生方の研究に打ち込むひたむきさや熱心なご指導に感動しました。先生方に恵まれたおかげで、面白くて充実した学習機会となり、いろいろ勉強することができました。

それから、盆踊り、伊丹マダン、クリスマスパーティーといったさまざまなイベントに参加しました。今は三味線の稽古をしています。難しいですが、日本の代表的な楽器として、その美しい音色が魅力なので、引き続き練習をして上達していきたいと思います。

2. 日本語の勉強について

毎週、日本語サロンと日本語教室に通い出してから、日本語を自分の国の言葉のようにスラスラと話せるようになるには、どのぐらいかかるのかを考えました。どんなに頭が良い人でも、ノートに書き留めなかったり、学んだ事を整理しなければ、新しい知識を忘れてしまうことがあります。だから、外国語の学習は基礎から始めなければなりません。音声、語彙、文法といった要素からなっている日本語においては、細かいところまで勉強しないと、微妙な言葉遣いを間違えてしまいます。日本独特の理論や社会背景に基づいた表現など、特に外国人には理解しづらい表現などについて、教える側も学ぶ側も注意する必要があります。

3. 伊丹市で感動したこと、伝えたいことについて

日本に来たばかりの頃、本屋の多いことが印象的でした。

本屋に行くと、子どもから高齢者の方まで、絵本や漫画や小説など、いろいろな本を読む人の姿を見かけます。日本人は本当に読書好きですね。通学の時、車内で本を読んでいる人をよく見かけました。

最後になりましたが、藤原伊丹市長、国際・平和課の皆さん、伊丹市民の皆さんの優しさに感動しました。ありがとうございました。また、日本語サロンと日本語教室の先生方の熱心さに感動しました。皆さんのおかげで、無事で、順調に、楽しくこの一年間の留学生活を送ることができました。特に日本語学習サロンで私を担当してくださった石井先生、いつも家族のように親しくしていただき、ありがとうございました。そしてお世話になった皆さん方に、改めてお礼を申し上げます。またお会いしましょう。



帰国前の伊丹市長表敬訪問にて



伊丹マダンのステージに出演しました